

韓国視察紀行 2 0 0 2

～ 6 月の江原道春川市へ～

研究員 門 脇 健 一

2002年6月24日から29日までの6日間の日程で韓国と中国に行き、国内で調査していた交通手段・ルートの情報収集を行った。米子空港からのソウル便を利用し、韓国は江原道に、中国は吉林省にと鳥取県と友好関係にあり、かつ当センターと研究交流のある研究機関がある地方への訪問となった。私にとっては中国は初めての訪問、韓国は12年振りで初めてと同様で、視察での見識に加え、異文化を体験する機会にも恵まれた。以下にその内の韓国での調査過程における視点・印象を中心に記述することとする。

1 . ソウルから春川市へ

春川市には6月25日夕方にソウルから列車で移動したが、当日はソウルで韓国対ドイツのサッカーワールドカップ準決勝の試合がある韓国にとっての歴史的な1日であった。昼間ソウル市内を調査しているうちに、次第に韓国サポーターの赤いTシャツを着ている人が増えていくのを感じられ、赤い人の波で我々の移動にも支障があるほどだった。テレビでよく映し出される韓国人サッカーサポーターの集結応援場所であるソウル市庁舎前には残念ながら、時間もなくて行くことができなかったが、その代わり当日夜は春川市庁舎前で偶然にも応援に参加する機会を得た。春川市庁舎前的大通りは試合の応援のために全面車両通行止めで、大型TVモニターが5台設置されていて、道路は熱狂的なサポーターで

埋まっていた。“テーハミング”(大韓民国)の耳をつんざくばかりの大声援に我々も加勢し、選手のワンプレイごとに共に叫び声を発し、にわか韓国サポーターとなり韓国の勝利を期待し声援を送り続けた。韓国チームは後半に失点し、残念ながら0対1で惜敗したが、歴史的な1日を韓国の人々と共に体感できた貴重な1日となったように思う。

2 . 春川市での交通情報

今回の江原道での視察地は道庁所在地の春川市とし、当センターと研究交流のある江原発展研究院の研究員から江原道の交通関係の情報を聴取させていただいた。

春川市に来る際に我々が利用したソウル(清涼里駅)から春川駅までの列車は、京春線利用で急行列車と普通列車の2種類がある。我々は急行ムグンファ号を利用し約1時間40分で到着したが、現在京春線線路の複線化工事中で完成後(2009年予定)には電車車両の改良もあり40～50分で到着できるようになるとの話を聞いた。大幅な所要時間短縮であり、完成後はソウル首都圏からの通勤圏ともなることが想像され、変貌が楽しみに思えた。

今年3月に開港した江原道の襄陽(ヤンヤン)国際空港運航状況は、国際線が上海線の1路線で週2便、国内線がソウル(金浦)線が毎日5便、釜山線が毎日2便の2路線があり、年間利用客は70万人を見込んでいるが、

問題点として国際線は利用客（特に中国からの入国者数）が少ないとの説明があった。またそれを裏付けるかのように、6月27日の地元新聞紙上に、唯一の国際路線の襄陽 - 上海線が搭乗率不調のため運航休止検討の交渉中で、7月から運航休止予定だとの記事があった。実際、それに対応してこの路線が運航休止になってしまったとの報道を後日聞き、国際線も含め今後の襄陽国際空港の有効活用が望まれるところである。

江原道の高速道路は、まだ計画段階・建設中路線が多く、本格的な高速交通時代には至っていないようだ。都市間のバスは高速バス（高速道路経由で基本的にはノンストップ）と市外バス（主に一般国道経由）の2種類あるが、春川市には今のところ高速バス路線は少なく2路線しかなく、その一方市外バス路線は24路線と大半を占めている。バスターミナルは別々にあるが、来るべき高速交通化時代に合わせるかのように高速バスターミナルは郊外の広い敷地で数年先の完成を目指し建て替え工事中であった。

利用した交通機関の料金については日本の価格と比べるとかなり安く半分から4分の1くらいだった。利用事例を挙げると、ソウル清涼里駅 - 春川駅は所要時間1時間40分くらいで急行列車運賃は4,700ウォン（約470円）で、春川 - 仁川国際空港はバスで所要時間3時間20分くらいで運賃は13,100ウォン（約1,310円）。また、ソウルの地下鉄は初乗りが600ウォン（約60円）で市内中心部はほとんどがこの料金で行くことができる範囲のようだった。

3．ホテルにて

韓国のホテルで、日本での一般的な認識と異なり、不思議に感じた点として、歯ブラシやシャンプーといった日本ではほとんど当然のように無料で置いてある使い捨て製品が、

無料では置いてなく有料だという点があった。高級なホテルでさえもほぼ同じで、環境に与える面を考慮して政策的にしてあるそうで、この点では日本より進んだ環境対策意識を感じた。ホテルの使い捨て製品などは常日頃無駄に感じているが、環境問題がしきりに叫ばれる昨今、我々日本人も浪費社会からの転換を真剣に考え、見習うべき点は環境先進国から学ぶべきだと韓国のホテルの1面を通じて考えさせられた。

4．視察を振り返って

韓国へは日本各地の22空港から定期便が就航し手軽に行くことができる。鳥取県からも2001年4月に米子空港からの定期便が就航し便利になり、1時間半で仁川国際空港に到着することができるし、さらにソウルから繋がる国際航空ネットワークで世界各地へと乗り継いで行くこともできる。ソウル便の1年目の搭乗率は70%を超え好調だったが、2年目に入り2002年5月の搭乗実績が初めて60%を割り込んだ。また、6月のソウル便利用予約は低調との事前情報があったが、我々の利用した米子発便はほぼ満席、ソウル発便は8割ほどの搭乗率のようで、事前情報に対しての各方面の営業努力のためか予想以上の乗客で混雑していた。私は米子空港からのソウル便を初めて利用したが、今年2002年は「サッカーワールドカップ日韓共同開催」に加え、「日韓国民交流年」でもあり、この歴史的な年を契機とし、県民の米子 - ソウル便の利用を念頭に置いての各分野のさらなる国際交流の推進に期待したいと強く感じた。